

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No.25

■平成28年6月5日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

CONTENTS

- ・平成28年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告
- ・平成28年度 日本仏教社会福祉学会第51回大会案内
- ・日本仏教社会福祉学会 理事選出選挙実施について (告知)
- ・日本仏教社会福祉学会 50周年記念誌について
- ・平成28年度 第1回理事・役員会 事業・委員会報告
- ・吉田久一先生に関するシンポジウムの開催のご案内
- ・『日本仏教社会福祉学会 年報』投稿論文の募集
- ・日本社会福祉系学会連合 2016年度総会
- ・『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会報告
- ・事務局 編集後記

日本仏教社会福祉学会

発行日：平成28年6月5日

発行：日本仏教社会福祉学会
事務局

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保

1150-1

淑徳大学埼玉キャンパス内

TEL：049-274-1511 (代)

FAX：049-274-1521

平成28年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告

日時：平成28年4月25日（土）15：00～17：10
場所：淑徳大学 池袋サテライトキャンパス

出席(敬称略) 代表理事 長谷川匡俊
個人理事 ・石川到覚・清水海隆・田宮 仁
・宮城洋一郎・藤森雄介・小笠原慶彰
・村井龍治

団体理事 ・長上深雪・三友量順・小島恵昭
監 事 梅原基雄
名誉会員 中垣昌美
事務局長 藤森雄介(個人理事重複))
事務局 (オブサーバー) 藤田則貴 渡邊義昭

欠席

(委任状の提出あり)

個人理事 ・谷山洋三・田代俊孝・渋谷 哲 ・池上要靖

団体理事 ・林 俊光・落合崇志
監 事・山口幸照

(委任状の提出なし)

団体理事 ・徳岡博巳

議事報告

事務局 事務局長より開会の宣言
定刻となり理事会を開催する。

出席の確認 理事役員数の2分の1以上の出席。

1 定足数の確認 出席の確認

理事会規程に基づき本理事会は成立している。

代表理事



平成28年度第一回の理事役員会を開催にあたり。昨年淑徳大学で大会を開催以来の顔ぶれになっている。50周年記念事業に関して理事役員の方々に分担をお願いしているところである。また、本年度の大会についても開催校の三友理事からご説明がある議事になっている。

事務局

理事役員規定、第4条の規定により代表理事が議事進行をさせていただきたい。

2 議案

第1号議案 会員の異動について

議長 事務局より第1号議案について。

事務局 個人会員の入会申し込み、退会会員の状況について説明。団体会員の花園大学からは、経費削減ということで退会の申し出があった。会費未納会員への対応については、4月に督促状を会員に送っている。また、九州の熊本地震への対応として、会員10名に安否確認をおこなった。メールで問い合わせている。

(1) 入会会員の承認について

事務局報告により、次の①新入会員1名、②退会会員5名について審査の結果、承認された。

・ **入会会員の承認 (順不同)**

資料の通り入会の申し出があった。

○ **個人会員**

- ・ 平野武男・清水隆則 (龍谷大学社会学部)
- ・ 八幡嘉晃 (社会福祉法人つどい)
- ・ 佐々木隆夫 (長崎国際大学人間社会学部)
- ・ 桑原昭信 (龍谷大学アジア仏教文化研究センター)
- ・ 足立隆延
- ・ 百瀬ユカリ (立正大学大学院社会福祉学研究科)

事務局 入会希望の平野氏は、仏教社会福祉入門を講読し入会を希望してきた。昨年の大会にも参加していただきお会いした。立正大学出身である。

議長 何かご意見は

理事 承認

(2) 退会会員の承認について

・ **退会会員の承認 (順不同)**

事務局 資料の通り退会者の申し出があった。

○ **個人会員**

- ・ 多田孝文 (大正大学) ・ 玉井 威 (同朋大学社会福祉学部) ・ 名和月之介
- ・ 秋山智久 (東京福祉大学)

○ **団体会員**

- ・ 花園大学

議長 何かご意見は

理事 承認

(3) 会費未納会員について

議長 未納者取り扱いについては、規定に従って対応させていただくことでよろしいか、引き続き督促の対応をしていただきたい。

結果、個人会員数 201+7-4=204名 団体会員24-1=23団体 計227会員となった。

花園大学の団体会員の退会は残念であるが、個人会員とともに団体会員の減少もみられるため、今後に向けて会員数を増やすため大規模な社会福祉法人や、教団母体の研究所や団体があれば事務局までご一報いただきたい。

理事 承認

第2号議案 平成27年度収支決算 (案) について

議長 平成27年度収支決算 (案) について、事務局から

事務局 収支決算の状況として、個人団体ともに当初予算より減少している。個人187口 (会費8000円)、団体24口 (会費30000円) となっている。また、雑収入の341775円の内、年報売上代金67冊 (学会繰入金1冊1000円) 67

000円、寄付として前年度の淑徳大学での大会運営の残金227555円、長上理事よりの寄付も含まれる。

支出の部では、学会賞賞金の50000円の増額は、奨励賞が2となったためである。予備費の項目では、退会会員の過加入金の返金、学会賞候補書籍の購入で金額が増えた。以上の通り、決算書の報告である。

議長 監事から

監事 適正に処理されていると確認した。

議長 何かご質問があれば。

石川理事 研究費の項目で、摘要で「平成23年度より特別会計」と記されているが、表記を含め内容や検討が必要では。

事務局 全事務局の判断で記載されている。

研究費の項目でゼロ金額を記載している。

議長 今後の対応を含め、前事務局長に確認をして総会までに明確にしたい。

理事 承認

第3号議案 日本仏教社会福祉学会研究倫理指針 (規定) について

議長 日本仏教社会福祉学会研究倫理指針 (規定) について

事務局 小笠原理事より昨年の第2回理事会で提出されていたが、事務局の対応が間に合わず今回の理事会となった。

議長 他の学会で、共同研究にかかわったにもかかわらず共同研究者の氏名が掲載されなかったことがあった。そこで、事務局に共同研究者の氏名を掲載を明記することを追記してもらいたいと考えている。

事務局 昨年度、倫理規定を作成していく中で必要があり作成したものである。本来研究担当理事の管掌であるが、指針を理事会で確認していただきたい。

石川理事 共同研究の成果の扱いについて本人確認を含め必要ではないかと現在考えている。

議長 共同研究の代表者として執筆にかかわった全ての者を公表することにより、明確になるのでは。

田宮理事 例えば、共同研究者の中に非会員がいた場合の扱いをどうするか。学会によっては発表前に入会してもらうなどの対応を取っている。記載時に、会員、非会員と明記していくことも必要では。

議長 学会会員が、他の研究者を巻き込んで研究成果を発表する場合の対応も今後考えられる。本指針の趣旨を考えるとどのようなことが言えるのか。

田宮理事 学会発表のエントリーの段階で会員以外は発表できないと明記している学会もある。学会誌で発表するのであれば、一定の

条件も付けることもできる。

議長 会員と共同研究者がいる場合、会員になってもらうことを前提に考えている。シンポジウムなどは、依頼演者側からの依頼であるため非会員でも問題はない。

文言を整えて、秋の理事会はかっていたきたい。

事務局 修正のご意見があれば、ご意見をいただきたい。

理事 承認

第4号議案 理事選出選挙の実施について

議長 理事選出選挙の実施について

事務局 本年度は、3年に一度の選挙の年である。選挙スケジュールは資料の通りであるが、6月上旬にニュースレターとともに選挙関連書類の送付、7月上旬に投票締め切り、7月下旬に理事会への報告を予定している。

選挙管理委員 前事務局長を選挙管理委員長、委員を事務局長藤森、渡邊(義)会員を委員としたい。選挙名簿については、規定により学会非の入金者が選挙権被選挙権を持っている。名誉会員については選挙権のみ有する。

議長 秋の理事会で、理事の選挙結果を踏まえ代表理事の選出となる。

議長 ご意見があれば。

理事 承認

第5号議案 日本仏教社会福祉学会会則の変更(代表理事の任期)について

議長 日本仏教社会福祉学会会則の変更(代表理事の任期)について

事務局 日本仏教社会福祉学会会則の変更(代表理事の任期)についておはかりしたい。

代表理事が長期間本会を代表することは望ましくないと考えていることが前回の理事会で話し合われた。会則では「代表理事の任期は3年である。ただし再任の場合は連続6年までとする」となっている。この条文について「通年で3期9年を上限とする」と変更したい。

またこの改正の施行に関して本年度の改定された総会ではなく、平成10年9月12日より遡って適用することとしたい。

村井理事 通年で3期9年という表記は紛らわしいのでは。通算がよいのでは。

事務局 修正して総会に諮りたい。

議長 規定の本文の中に、さかのぼって適用する何かご意見は。

小笠原理事 年数を入れなくても、通算3期でもよいのでは。

議長 通算3期とするとしたい。

理事 承認

第6号議案 日本仏教社会福祉学会内規の変更(研究会、勉強会等開催の際の講師謝礼)について

議長 日本仏教社会福祉学会内規の変更(研究会、勉強会等開催の際の講師謝礼)について

事務局 一昨年より、東西でそれぞれ勉強会を開催するようになった。一方勉強会の講師(会員・非会員)への謝礼について十分に規定が定まっていなかった。そこで、内規として研究会や勉強会の講師への謝金について上限を定めたい。

また、予算項目を立て研究費として計上していくことが今後必要ではないかと考えている。

石川理事 上限を設定すると、お願いしづらいケースもあるのでは。

議長 講師を依頼する場合も、上限がある中で考えることもできるのではないか。本来の勉強会の趣旨を鑑みて判断すべきではないか。

学会の財政状況を考えると、一定の枠を設定することは必要ではないかと考える。

宮城理事 若い研究者を育てることも目的にある。講師をお願いしたり実費は一定程度必要ではないかと考える。

事務局 規定提案の背景としては、慶弔規定に基づき金額設定があったため、非会員2万円、会員5千円を上限とした。理事会の交通費補助を半分にしたことによる予算を研究費にあてがっていききたい。

梅原監事 謝金と交通費を分けて支給は考えられないか。

議長 ご意見をうかがったが、予算もあることであるので今回の提案で実施し、実際の運用の中で不都合であれば今後検討したらどうか。運用は、東西の勉強会の担当者の中で判断してもらいたい。

理事 承認

第7号議案 平成28年度 第51回大会について

議長 平成28年度 第51回大会について

三友理事 日程の変更確認

学内の工事の関係で当初予定から変更となった。平成28年9月30日「理事役員会」、10月1日「50周年記念式典・シンポジウム・総会」、10月2日「研究発表」とする。テーマは「仏教社会福祉の課題と展望」

清水理事 テーマに即した基調講演を代表理事にお願いした。シンポジウムでは、池上理事にコーディネーターとして、シンポジストを石川理事、宮城理事、学会内若手(未定)、コメンテーターを中垣名誉会員にお願いして

いる。50年式典として、本学会の基となる日本印度学仏教学会会長、日本社会福祉学会会長、キリスト教社会福祉学会、日蓮宗宗務院からの挨拶を予定している。

議長 立正大学から準備の報告のとおりであるが、ご意見は。法要が音楽法要を予定している。例えば50周年法要の中に物故者法要を含めたらどうか。主催者挨拶と、来賓挨拶を分けたほうがよいのでは。

10年ほど前のキリスト教社会福祉学会50周年大会は厳粛な中で印象深いものであった。本会も、多くの関係者に声をかけていただきたい。基調講演では、公開講演ということも考えたが引き受けさせていただくことになった。日程や内容に関して、何かご意見があれば。

清水理事 シンポジストのご推薦があれば。

議長 若手で考えてもらいたい。今後ご提案いただきたい。研究発表もお願いしたい。

石川理事 50周年記念が前面に出るように工夫したらどうか。「50周年記念大会」と表記したらどうか。

議長 石川理事からの提案を踏まえ「50周年記念大会」と打ち出していきたい。大会校には準備を含めよろしくをお願いしたい。

理事 承認

第8号議案 平成29年度 第52回大会について

議長 平成29年度 第52回大会について

宮城理事 関東で連続して開催していることから、平成29年度は関西での開催を考えている。現在の本務校の種智院大学を会場としていきたい。龍谷大学からの協力も頂きながら開催に向けていきたい。

議長 来年度、種智院大学には近隣大学の協力をえて開催していただきたい。

その他

議長 なにかあれば。

事務局 特になし。

3 報告事項

議長 ① 50周年記念事業について

事務局 50周年記念誌について

清水理事 仏教社会福祉学会50周年記念誌について、現在原稿の校正に入っている。復刻版から中垣名誉会員の原稿も再録原稿として掲載する予定。スケジュールは1カ月ほど遅れているが原稿のお願いを継続していく。会員にはCDで配布する。冊子は50部ほど関係者に配布。

議長 ② 各研究プロジェクトについて

事務局 各担当理事から報告をお願いしたい。

・年報編集委員会・査読委員会

小笠原理事 年報47号の発行に向けて準備中。現在、昨年の大会の記念講演、シンポジウムについては原稿待ちの状態。

事務局 シンポジウムでは、同時通訳などの内容確認など時間がかかっている状況であり要約を作成している。

・仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト

石川理事 淑徳大学が戦略的研究基盤形成支援事業のテーマに即して進めていきたい。昨年の大会で新保会員の報告もあり、仏教ソーシャルワークの概念化など、本年の大会で発表準備を進めている。

・東日本大震災対応プロジェクト

藤森理事 調査報告書については会員に送付済み。全日本仏教会主催の宗派担当者を対象とした情報交換会を昨年11月27日に実施した。現在、仏教プラットフォームを7月を目安に立ち上げたい。

・「仏教社会福祉学研究史序説」について

事務局 谷山理事と打ち合わせをおこない、目次について学会論争史を加えた。

以上、報告事項となる。

議長 今回の理事会で議論していただいた内容を踏まえ、淑徳大学のプロジェクトと合わせて学会の研究プロジェクトも連動させていきたい。

田宮理事 熊本地震に関して学会として取り組むことはないのか。

事務局 ホームページで地震に関してお見舞いの文章を掲載する予定。事務局では情報収集と通して支援の在り方を考えていきたい。

田宮理事 理事会への理事の参加状況などを考えると、十分にその責任を果たしていないと言える。団体理事であれば、その団体を代表するものでありそのありようも考えなければならないのではないのか。

議長 代表理事として、田宮理事の意見を受け止め働きかけも必要ではないかと考えている。また、熊本地震に関しては、大学間で協力要請もあるのでは。学会としては、状況を見ながら判断していきたい。その動き方については、事務局と連携して進めていきたい。

議長

その他なければ、以上で理事会を終了した。長時間ありがとうございました。

開会

事務局より開会を宣言。



(文責：事務局)

平成28年度 日本仏教社会福祉学会
第51回大会案内

日本仏教社会福祉学会 第51回大会
日本仏教社会福祉学会50周年記念

【1】大会日程

(1)平成28年9月30日(金) 午後
第2回理事・役員会

(2)平成28年10月1日(土)

午前9:30～ 受付
9:30～10:10 日本仏教社会福祉学会
物故者法要
(立正大学石橋湛山記念講堂)

10:10～10:45
開会式【50周年記念式典】
(立正大学石橋湛山記念講堂)

1. 代表理事挨拶
2. 日本印度学仏教学会会長挨拶
3. 日本社会福祉学会会長挨拶
4. キリスト教社会福祉学会会長挨拶
5. 日蓮宗宗務院挨拶

11:00～12:00 基調講演(代表理事)
(立正大学11号館)

午後12:00～13:00 昼食・休憩
13:00～16:45 シンポジウム
テーマ「仏教社会福祉の課題と展望」
1. コーディネーター 池上 要靖氏
(身延山大学)

2. シンポジスト
石川 到覚氏(大正大学)
宮城洋一郎氏(種智院大学)
学会関係1名(未定)
3. コメンテーター
中垣 昌美氏(元代表理事)

17:00～18:00
日本仏教社会福祉学会 総会
18:10～20:00 学会会員懇親会

(3) 平成28年10月2日(日)

午前9:20～ 受付
9:50～12:00 研究発表
(第1部会・第2部会)

① 9:50～10:20

② 10:20～10:50

【休憩】

③ 11:00～11:30

④ 11:30～12:00

午後12:00～ 日本仏教社会福祉学会
編集委員会

【2】大会会場

立正大学品川キャンパス

住所：東京都品川区大崎4-2-16

交通：JR山手線 大崎駅・五反田駅

都営地下鉄浅草線 五反田駅

徒歩5分程度

【3】担当者等

(1)大会実行委員長
三友量順(立正大学社会福祉学部)

(2)連絡先 大会担当者
清水海隆(立正大学社会福祉学部)

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学社会福祉学部に

Tel:048-536-1328 Fax:048-536-2522

Mail:kairyu1952@gmail.com

日本仏教社会福祉学会 理事選出選挙
実施について(告知)

本年度は、3年に一度の理事選出選挙の年
あります。会員の皆様におかれましては、事
務局からの「投票要項」をご確認いただき投
票のご依頼を申し上げます。

1. 理事選出選挙の流れ

- ・平成28年4月23日(土)
理事・役員会 選挙管理委員会設置
- ・6月上旬 ニュースレターとともに、選挙
関連書類一式を発送
- ・7月上旬 投票締切・開票
- ・7月下旬 結果を理事会に報告(郵送)
9月30日(金) 第51回学術大会にて
新旧理事会の顔合わせ及び総会にて承認

2. 日本仏教社会福祉学会理事選出規程

第一条(制定の根拠)

本規程は、「日本仏教社会福祉学会会則」第
五条(会員)・第九条(役員)・第十条(役
員の選出)により、これを制定する。

第二条 (選挙管理委員会)

理事会が指名する理事1名と若干名の会員で選挙管理委員会を組織する。

第三条 (選挙権・被選挙権)

選挙権及び被選挙権を有する者は、選挙が行われる年の4月1日までに、前年度までの会費を納入している会員とする。なお、名誉会員については、「選挙権」のみを有するものとする。

第四条 (理事の構成および定員)

1. 本学会の理事は、個人会員選出理事(以下、個人理事)と団体会員選出理事(以下、団体理事)とする。なお、団体理事は、当該団体の代表者にこだわらず、学会会員たる者とする。

2. 理事定員は18名とする。理事の選出にあたっては、a. 選挙による選出枠を10名、b. 被選出者による推薦枠を8名以内とする。

a. 選挙による選出枠のうち、個人理事を7名、団体理事を3名とする。

b. 被選出者による推薦枠のうち、個人理事と団体理事の比率は特に定めないが、地域的配分が考慮されることが望ましい。

第五条 (理事選出の方法・手順・理事役員会の構成)

1. 個人理事の選出にあたっては、各個人会員が2名を連記する無記名投票により得票数の多い順により選出する。

2. 団体理事の選出にあたっては、各団体会員が2団体を連記する無記名投票により得票数の多い順により選出する。

3. 個人会員・団体会員別に選挙を実施し、得票数の上位者より定数までを理事候補者とし、選出された理事候補者からの推薦理事候補者と併せてこれを総会の議に諮る。

4. 代表理事は総会の承認を得た理事の互選によって選出する。

5. 監事は、理事会の推薦により決定する。その職務の内容から、少なくとも1名は本会事務所の所在地に近在の者が望ましい。

以上

最終(平成21年9月5日 改正承認)

3.平成28年度 日本仏教社会福祉学会

理事選挙 投票要項 抜粋(案)

1) 選挙権および被選挙権を有する者

会員は原則としてすべての選挙権・被選挙権を有します。ただし、会員名簿の「選挙権」の欄に「×」が記載されている会員は、次項の理由により選挙権・被選挙権は有しません。

2) 選挙権および被選挙権を有しない者

「日本仏教社会福祉学会理事選出規程」第三条に「選挙権及び被選挙権を有する者は。選挙が行われる年の4月1日までに、前年度までの会費を納入している会員とする。なお、名誉会員については、「選挙権」のみを有するものとする。」という規定があります。平成27年度までの会費が未納の方には選挙権および被選挙権は有りません。

3) 名誉会員の選挙権および被選挙権について
桑原洋子氏、中垣昌美氏の名誉会員は、すでに学会の運営全体について適時ご助言いただいておりますので、「選挙権」のみを有しておられますので、会員名簿の欄に「☆」を記しております。

4) 投票方法および留意事項

<個人会員の投票> 投票用紙には、被選挙権を有する個人会員の内、2名の氏名(姓名を楷書で記入)を所定欄に記入してください。

<団体会員の投票> 投票用紙には、被選挙権を有する団体会員の内、2団体の団体名称(個人名の記入は無効)を所定欄に記入してください。

なお、記入後は、各票を切り離さずに「投票用中封筒」には、投票者の住所・氏名を記入せず、「投票中封筒」を「返信用封筒」に封入し「返信用封筒」には、投票者の住所と氏名を明記し、下記の投票期限までに到着するよう投函してください。

5) 無効票の取り扱い

① 投票の期限までに到着しなかったもの。

② 投票用紙に指定された事項以外の記入がある場合は、その記入のある票のみを無効とする。

③ 「投票用中封筒」に投票者の住所や氏名の記入ないし押印等がある場合は、その封筒に入っている票を全て無効とする。

④ 会員名および団体名が3名以上を記入した投票用紙が入っている場合は、その封筒に入っている票を全て無効とする。

⑤ 投票用紙に同一の会員名および団体名が記入されている場合は、そのうち1票のみを有効とし、それ以外の同一名の票を全て無効とする。

⑥ その他、選挙管理委員会が無効と認めたもの。

6) 投票の期限(必着)

平成28年6月30日(木)までに選挙管理委員会事務局に到着したものを有効とします。

7) 開票について

- ① 本学会選挙管理委員会の責任において、投票締切り後すみやかに、本会選挙管理委員会が学会事務局員を立会人として開票いたします。
- ② 開票の結果、個人理事は上位得票者7名、団体理事は上位得票3団体を当選といたします。

8) 投票の秘密保持

事務局に郵送された封筒（投票用紙）は、開票日まで厳重に保管し、開票当日（投票期限日）に本学会の選挙管理委員会が学会事務局員を立会人として、その立ち会いのもとで開封いたします。

9) 理事の確定について

次期理事の確定は、開票結果を踏まえて平成25年度総会にて承認を行う。

10) 選挙管理委員会について

委員長：鷺見 宗信
委員：藤森 雄介、渡邊 義昭とする。

11) 本件の連絡先

〒354-8510埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
淑徳大学 埼玉キャンパス
日本仏教社会福祉学会事務局
TEL. 049-274-1511 (代) FAX. 049-274-1521
E-mail : fujita@ccb.shukutoku.ac.jp

日本仏教社会福祉学会
50周年記念誌について

日本仏教社会福祉学会50周年記念誌につきましては、現在準備が進められています。その概要についてご案内いたします。

【構成】

A. 本編

- (1) 代表理事挨拶
学会50年の歩みと今後の課題
- (2) 学会の歩み
日本仏教社会福祉学会の五十年
—その運営と研究課題—
- (3) 日本仏教社会福祉学会の回顧と展望

・再録原稿

- ① 守屋 茂「仏教社会福祉の回顧と展望
—人格の人間の失地回復をめざして—」
- ② 西光義徹「日本仏教社会福祉学会の回顧と展望—薄明のなかにたたずみ想う—」
- ③ シンポジウム「日本における仏教福祉の原点を探る」（第28回・仏大）
- ④ シンポジウム「仏教福祉再考」（第31回・龍大）

(4) 学会関係者のメッセージ

- ① 大会を引き受けてきた大学
《関東》淑徳大学・大正大学・立正大学
《中部》同朋大学
《関西》龍谷大学・佛教大学・花園大学
・大谷大学・高野山大学
- ② 主な事業関係者
「十周年記念・仏教社会事業年表・仏教社会事業文献目録」
「アジアプロジェクト」
「仏教社会福祉辞典」
「仏教社会福祉入門」
「東日本大震災」
「事務局」
「出版協力」
- ③ 学会賞・奨励賞受賞者から
学術賞 長谷川匡俊・高石 史人
奨励賞 長上 深雪・大久保秀子

B. 資料編

- (1) 予算の動向
- (2) 決算書の動向
- (3) 個人会員・団体会員数の推移
- (4) 学術大会の開催状況
- (5) 年報総目次

C. 文献目録（CD版）

- (1) 仏教社会福祉関係文献目録（凡例）
- (2) CD版添付

※会員配布は、CD版とする。

平成28年度 第1回理事役員会
事業・委員会報告

第1回理事役員会で報告のあった、事業・委員会の報告の詳細についてご案内いたします。

1. 年報編集委員会・査読委員会

- 1) 平成27年度 活動報告
 - ① 『年報』46号の発行
 - ② 年報編集委員会の開催
平成27年10月11日 淑徳大学にて
 - ③ 『年報』47号発行に向けての編集
- 2) 平成28年度 事業・活動予定
 - ① 『年報』47号発行に向けての編集と発行
 - ② 年報編集委員会の開催
平成28年10月2日 立正大学にて
 - ③ 『年報』48号発行に向けての編集
 - ④ 査読委員の新規依頼・継続依頼の検討
 - ⑤ 『年報』48号発行に向け編集方針の検討

2. 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト

- 1) 平成27年度 活動報告

平成25年度から3カ年の文部科学省研究助成「基盤研究C(一般)研究課題『わが国におけるソーシャルワーク価値の基礎的研究—仏教者の実践を通して—』(研究代表者:新保祐光、共同研究者:鷲見宗信、田中美喜子、吉水岳彦、勝野隆広、浅沼太郎、石川至覚等)」で進めてきた。平成26年の年末に、本学会員の全数アンケート調査を実施(回収率25%)して示唆に富む回答が寄せられた。その分析結果を平成27年度第50回大会の分科会において新保祐光会員が報告した。(大会要旨集参照)

それと並行して、東アジア諸国内の内、台湾(台北市)や中国(上海市)などのフィールド調査を行い、仏教や道教など宗教団体が関与する地域福祉活動の調査も捉えつつ、アジア型ソーシャルワークにおける仏教の役割や特徴を見出す取り組みを進めた。

平成27年度は、タイ(バンコク)でのアジア太平洋・ソーシャルワーク会議の参加と併せてタイ仏教寺院が実践する福祉活動のフィールド調査を実施した。そして、グローバルなソーシャルワークと仏教ソーシャルワークの概念の比較検討をするために、長崎陽子会員を招き研究会を実施して、仏教ソーシャルワークの概念化の議論を深めた。こうした取り組みについて本学会第51回大会での報告に向け準備している。

2)平成28年度 事業・活動予定

本研究事業の文部科学省研究助成は平成27年度で完了した。よって、本研究を継続すべく大正大学の児童福祉及び地域福祉領域の研究者を加え、アジア型ソーシャルワーク研究に向けて文部科学省の研究助成を申請中である。淑徳大学の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究(5年間)」への研究協力をもって本研究事業の継続研究に関する体制づくりの再編を求めたい。

3. 50周年記念誌

本ニューズレターP7にて紹介されているように、本学会50周年に向け発行を目指し校正作業に取り組んでいるところである。

4. 東日本大震災対応プロジェクト

1)平成27年度 活動報告

平成27年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の一環として、3種類のアンケート報告書を刊行し、関係諸他団体及び日本仏教社会福祉学会会員への配布を行った。日本仏教会主催の宗派担当者を対象とした情報交換会を平成27年11月27日に実施した。

2)平成28年度 事業・活動予定

昨年度予定していた、「調査を踏まえた更なる分析研究の参加募集」が行われていない

ため、早急に実施したい。同様に、「仏教プラットフォーム」については、7月中の稼働を目指したい。

5. 『仏教社会福祉学研究史序説』

現在、目次案を出している。

目次案

1. 文献レビュー

- 1-1) 歴史 1-2) 思想 1-3) 援助技術論
- 1-4) 分野別 1-5) 宗派別

2. 仏教社会福祉史研究

- 2-1) 古代 2-2) 中世 2-3) 近世
- 2-4) 近代 2-5) 現代

3. 仏教社会福祉学会論争史

- 3-1) 「仏教社会福祉」 3-2) 「仏教福祉」
- 3-3) 「仏教ソーシャルワーク」
- 3-4) 論争史

4. 海外における仏教社会福祉情勢研究

- 4-1) 東アジア 4-2) 東南アジア
- 4-3) 南アジア

5. 現代的課題に関する研究

- 5-1) 看取り 5-2) 自殺防止
- 5-3) グリーフケア 5-4) 国際援助活動
- 5-5) 災害支援活動 5-6) (その他)
- 5-7) 今後の研究展望



吉田久一先生に関する
シンポジウム開催のご案内

昨年10月、本学会にもご縁の深かった吉田久一先生の御遺著『日本社会事業思想小史』が刊行されました。つきましては、この機会に吉田先生に関するシンポジウムを、本学会と社会事業史学会、近代仏教史研究会の三団体の共同主催で実施することとなりました。詳細は、以下に示す通りです。

記

- 1. 日時：平成28年11月12日(土曜日)
午後から
- 2. 場所：淑徳大学千葉キャンパス

※時間等詳細が決まりましたら、ホームページ上にアップしたいと思います。



『日本仏教社会福祉学会年報』
投稿論文の募集

※投稿規定

- (1) 本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。
- (2) 投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・書評・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。

- (3) 本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。
- (4) 投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。
- (5) 投稿に際しては、印刷原稿3部を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。
- (6) 執筆上の細目は原則、次の通りとする。
 - ① 論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。
 - ② 本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。
 - ③ 長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。
 - ④ 引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名また巻・号、発行所、発行年、ページの順とする。
 - ⑤ 図表については、掲載順に番号と題名を付し、掲載箇所に添付する。
- (7) 執筆者が抜刷を希望する場合は、実費とする。ただし、「基調講演」、「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。

※投稿希望の会員は、事務局までご一報ください。宜しくお願い致します。

**日本社会福祉系学会連合
2016年度総会**

開催日時：2016年5月29日（日）
17：10～17：50
開催場所：立教大学 池袋キャンパス12号館
12号館 第3・4会議室

審議事項は、以下の6項目である。

1. 2015年度事業報告について
2. 2015年度決算および監査報告について
3. 運営委員の選出について
4. 2016年度事業計画について
5. 2016年度年度予算について
6. その他

報告事項

1. 加盟学会の平成27年度の活動ホームページ掲載
2. 災害福祉アーカイブについて
3. その他

日本社会福祉系学会連合2016年度総会においては、2015年度事業報告として、シンポジウム等の開催報告や日本学術会議の活動に対して支援や協力をしていくこと、並びに日本社会福祉学会 岩田正美会長からの「戦後70

年目の8月15日によせて」への共同声明への賛同の呼びかけが行われ、日本社会福祉系学会連合でも共同声明に賛同した旨の報告が行われました。また、新運営委員が示され、日本社会福祉系学会連合の学会連合運営委員は、下記の9名です。

会 長	黒木 保博（日本社会福祉学会）
事務局長	金子 光一（日本社会福祉学会）
	後藤 広史（日本社会福祉学会）
	小櫃 俊介（日本社会福祉学会）
会計担当	李 恩心（日本地域福祉学会）
	小林 良子（日本司法福祉学会）
	高野 和良（日本社会分析学会）
	志賀 利一 （日本職業リハビリテーション学会）
監 事	田中 英樹（日本精神障害者 リハビリテーション学会）

『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会報告

関東地区については、平成28年2月15日（月）に講師に龍谷大学の長崎陽子先生をお招きし、「ソーシャルワークのグローバル定義と仏教思想」というテーマで行われました。また、関西地区については、平成28年3月30日（水）に立正大学の吉村彰史先生をお迎えし、仏教福祉思想の「縦糸」というテーマで行われました。今年度につきましても、関東地区と関西地区で勉強会を予定しておりますので、ふるってご参加ください。

事務局 編集後記

本年は、3年に一度の理事選出選挙の年になります。事務局として、会員の皆様に確実な書類の送付と選挙のサポートをさせていただいておりますが、会員の方に送付しても転居先不明で返ってくる郵便物もあります。住所や所属の変更がありましたら事務局までご一報いただくと大変助かります。昨年度は淑徳大学（千葉市）、本年度は立正大学（品川区）と2年続けての関東での開催になります。4月の理事会で来年度は、関西の種智院大学での開催となりました。事務局もコスト軽減や効率化など新しい事務局体制作への引き継ぎも考えなければなりません。また、事務局としてましても、新規会員の増加を目指した取り組みが大きな課題でもあります。ホームページの活用などSNSを取り入れた情報発信も時代の流れの中で必要ではないかとも考えております。会員の皆様の、ご意見やご提案をいただければと考えております。